

移動スーパーとくし丸



玄関先まで移動販売車の軽トラックが出向き、会話し、買い物をして頂く。買い物の楽しさを残しつつ、「買い物難民」と言われる方々を、支援する目的で取り組んでいます。移動販売車は、軽トラックと言えども、冷蔵庫付きの専用車ですから、生鮮品も積み込んだそのアイテム数は400品目以上。また、買い物だけにとどまらず、移動販売車のドライバーさんも「見守り隊」としての役目を果たしてくれています。

旭水町内会の買い物支援事業が連携している「移動スーパーとくし丸」は、スーパーダイイチさんの協力のもと、買い物支援の拠点や、個別の配達に活躍しています。買い物にお困りの際は、是非、旭水町内会までご連絡下さい。

ちょっとした困りごとを、気軽に相談できる地域の体制づくりについて



札幌市生活支援体制整備事業
豊平区第2層生活支援推進員
(豊平・美園・平岸・中の島)

多田 めぐみ

町内への思いを結集した 「移動スーパー買い物支援の取り組み」

旭水町内会の移動スーパー「とくし丸」を活用した買い物支援は、当初、新型コロナウイルス感染症の影響で活動が制限されるなか「買い物はどんな時も必要不可欠」という強い思いのもと取り組みが開始されました。生活支援推進員として、町内の皆さんと「買い物に困っている高齢者はどこに多く住んでいるか?」「本当に支援を必要としている人に届けるには?」と協議の場や、買い物拠点を共に回り、話し合った日々を懐かしく思います。本事業としても、単位町内会主体の買い物支援として市内初の継続事例であり、「買い物支援の旭水モデル」として、他地区の指標にもなっています。現在、旭水町内会では、買い物拠点の数は集約し、移動販売車との連携による個別配達、車で買い物に行く住民が同じマンションの高齢者を誘って同行するなど、様々な方法で高齢者の買い物問題を解決しています。町内会の魅力を詰め込んだこの冊子が、より多くの皆様に届き、地域における支え合いの輪が広がることを願っています。

編集後記



福祉のまち推進センター
事務局次長
有馬 尚経

旭水町内会でされている買い物支援事業は、5周年を超えました。これも、利用していただいている地域の皆さん、町内会の買物ボランティアの皆さん、そして雨の日も風の日も雪の日も来てくださる移動スーパーとくし丸の佐々木さんのおかげでございます。この期間、利用客拡大・減少による拠点数の増減などもありました。

このように5年以上もの長きに渡って、福祉支援のもとにおける当該事業を継続している地区は旭水地区においてほかにはないと言ってもいいでしょう。そのため、他の地区からの導入相談なども多数受けるようになってきました。最初は旭水地区も社協や生活支援推進員などの意見で導入はしたものの、どうなるものかと不安しかありませんでしたが、旭水町内会役員・会員の皆さんと町内会買物ボランティアさんの多大な尽力がこの不安を払拭し、このように成功しつつあることは非常に喜ばしいことです。今後も10年目いやそれ以上の継続を願ってやみません。

KYOKUSUI きよくすい 買い物支援事業特集号

発行 認可地縁団体 旭水町内会 会長 高橋恒夫 ・ 豊平地区福祉のまち推進センター
協力 ・ 豊平まちづくりセンター ・ 豊平地区民生委員 児童委員協議会 ・ 豊平区社会福祉協議会 ・ 豊平区第一包括支援センター
・ 豊平区介護予防センター美園 ・ 豊平区第2層生活支援推進員 ・ 社会医療法人恵和会 ・ 移動スーパーとくし丸
デザイン デザイン事務所 Design's Bridge
発行日 令和7年10月30日 本誌掲載の記事・写真などの無断転載を禁じます。本誌に掲載されている情報は令和7年10月1日現在のものです。

KYOKUSUI

旭水地区と豊平地区とみなさまをつなぐ

～買い物支援事業特集号～



旭水町内会の魅力を
さぐる!!

札幌市生活支援体制
整備事業とは何か?

買い物を通して
住民同士のつながりを!!





住民同士が買い物でつながるまちづくり



旭水町内会のエリアには、大型スーパーがなく「高齢になると買い物が不安」という声が聞かれたことがきっかけとなり、平成30年、生活支援体制整備事業の当時の生活支援コーディネーターが地域の老人クラブの会員に向けて「生活の困りごとに関するアンケート」を実施した。その結果から、多くの高齢者が「将来における買い物の不安」を感じていることを把握したため、町内関係者と生活支援推進連絡会議（協議体）で、「高齢者の買い物の課題」の解決に向けて話し合いを開始した。

協議体では、地域のニーズに対応する解決方法について、移動販売車の活用を検討し、町内会役員らで構成した「買い物支援実行委員会」で、高齢者の多く住む場所などに買い物拠点の設置、住民有志で拠点を見守る体制などを整えた。令和2年9月には「旭水町内会移動スーパー買い物支援」の取り組みを本格的に開始し、今では住民ボランティアが高齢者を支える地域の仕組みとして、買い物の課題だけでなく、見守りや交流の場としても親しまれている。

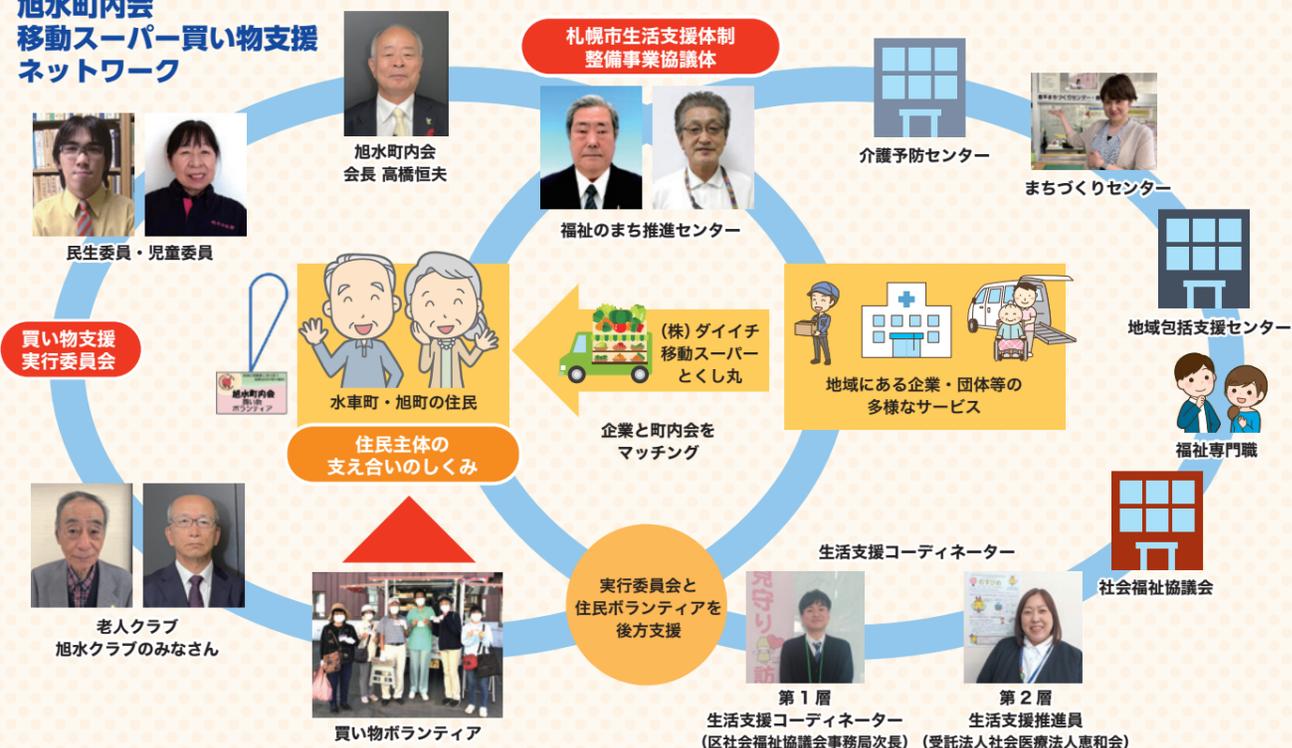


旭水町内会 移動スーパー買い物支援

旭水町内会の移動スーパー買い物支援の仕組みでは、生活支援体制整備事業で協議体を開催し、地域の福祉関係機関も連携した動きをとって取り組みを進めてきた。ネットワークが構築されたことで、買い物

ボランティアでもある町内会役員が高齢者の変化を感じた時には、福祉のまち推進センターや関係機関に相談し、介護保険サービスなどに繋がられる体制を整えている。

旭水町内会 移動スーパー買い物支援 ネットワーク



地域の高齢者に必要な生活支援を



買い物支援実行委員会 実行委員長（町内会長）
高橋 恒夫

この地区に大型スーパーが無いことで高齢者が買い物に不安を持っていた事から始まった移動スーパーによる（買い物支援事業）。店に向かなくても商品を自分の目で見て・手で触れて買い物をすることが高齢者にとっての身近な楽しみの1つになっていると感じさせられます。今後もこの支援を継続し、住みよい町づくりをしていきたいと思っています。



老人クラブ「旭水クラブ」会長
瀧口 潔

移動スーパーとくし丸が旭水町内会に導入されて5年の歳月が流れました。数ヶ所の販売拠点でボランティアの方々とともに door to door の販売が好評で、利用客たちに喜ばれております。これからの課題として、高齢者が増加している社会状況から、販売拠点の拡大がさらに必要になるとか思います。

買い物支援を通じたコミュニティの活性化



買い物支援実行委員会 買い物ボランティア
古屋 康子

買い物支援事業について、最初はどういう風にやればいいのか悩みました。でも、買い物ボランティアとしてやっているうちに利用者の方々の喜ぶ顔、商品を選んでいるときの真剣なまなざしに、生活支援としての必要性を強く感じるようになりました。「運んでくれてありがとう」の言葉が一番うれしいです。



買い物支援実行委員会 買い物ボランティア
伊藤 京子

民生委員をやっているので、利用者の中に顔見知りが多く「今日はアレあるかい？」と商品の有無を聞かれることがよくあります。ボランティアとして品出しも手伝っているので「あるよ！」って持っていくと、よかったよかったと言われます。こういう何気ないやり取りが高齢者支援として必要だと思っています。

一人暮らしの高齢者を支える地域の体制づくり



買い物支援実行委員会 実行副委員長
屋根田 正美

「旭水町内会との連携」～見守り活動のその先を行く～ 買い物支援とボランティア活動

豊平地区でも比較的広大な領域の旭水町内会においては、一人暮らしとなってしまう高齢者の数は年々増えてきております。町内会でも民生委員や福祉推進員と連携して、見守り活動を行っておりますが、その中でも一番問題になっていたのが「買い物」をどうするかでした。旭水地区にはスーパーやコンビニの軒数は比較的多いですが、そこまでの移動や重い荷物を持って帰宅するというのが困難となっていました。近所の人や知人に頼むことは可能ですが、毎回というわけにもいかず、また往復タクシーの利用も買い物の金額よりかかってしまうこととなります。

今回、移動スーパーによる買い物支援によって、買い物困難という事例が解消することになりました。通信販売などと違って商品を見て買える喜び、買い物ボランティアの方々による荷物支援など、高齢者のニーズに適した取り組みが各所に組み込まれており、利用者にとっても喜ばれています。



福祉のまち推進センター 運営委員長
渡辺 英雄

「買い物支援」～地域と事業者の協働で課題解決へ～ ニーズが高まる買い物支援

地域で「買い物に不便を感じている人が増えている」実態が見えた。その理由はさまざまである。旭水町内会女性部会員や福祉推進員、老人クラブ会員等の連携で「移動スーパー」の拠点販売支援がスタート。推進センターの重点事業の一つとしてこの実行委員会を支援をしてきましたが、身体が不自由な方を迎えに行き、買ったものを一緒に家まで届ける、途中のボランティアとの楽しい会話から困りごと等を吸い上げて町内会で解決につなげるといった地道な活動が好評でした。雨の日も、風の日も、そして雪の日も拠点の除雪をして駐車場を確保、商品の陳列も手伝うことから、信頼関係も築けました。

節目の5年を過ぎ、一定の役割を十分に果たし関係者の心に大きな金字塔を立てられたと評価しております。次代を担う人々にこの活動を知っていただくべく、これまでの足跡を資料に残すことにしました。最後に旭水町内会の将来ビジョンについても掲載、次代への道標となれば幸いです。



札幌市生活支援体制整備事業が

①ニーズ把握

地域の老人クラブ訪問時、地域の歩いて行ける範囲には大型スーパーがなく、数件あるコンビニだけでは品数が少ないなどの、地域の買い物環境に関する情報を把握。



令和元年5月
町内会関係者への
事業説明



②取り組み方針

当初は地域の老人保健施設の送迎車を利用した「買い物バス案」を検討したが、新型コロナウイルスの影響で断念。緊急事態宣言下でも「買物の困りごとはこのままにしておけない」という意見のもと、移動スーパーを活用した買い物支援に取り組む方針を決定し、町内の買い物拠点の設置などを進めた。



町内に向けて買物の困りごとアンケート

買い物支援の取り組みを後方支援!

③その後の活動

町内会役員有志が買物支援の拠点で、ボランティア活動を開始し、利用者の顔の見える関係作りに取り組む一方で、買い物支援実行委員会を立ち上げて高齢者のニーズの増減に対応しながら、拠点を運営。町内の買い物支援の仕組みの確立と福祉関係機関とのネットワークを構築した。

令和3年9月
買物支援1周年



④取り組みの成果

買い物の課題解決だけでなく 地域への波及効果



移動スーパー買い物支援の
仕組みが誕生した!
町内会と高齢者が、
より身近な関係性を築いた!
買い物支援が町内会の
魅力のひとつとなった!

経緯

令和元年



令和2年



令和3年



令和4年

令和5年



令和7年

6月

買い物の困りごとアンケートの実施
(老人クラブ)

8月

アンケートの結果共有と今後の方針検討

8月

アンケートの内容見直しと再調査の検討、
買い物困りごとアンケート(町内高齢者世帯)

11月

アンケートの結果共有と買い物バス運行案検討
(地元の老健が送迎バス提供)

7月

コロナ禍の買い物課題の共有と
実施手法の再検討

8月

移動販売車の活用を協議

9月

実行委員会を設置、コアメンバー会議で
町内の買い物拠点と周知活動について協議

9月

移動スーパーとくし丸を導入し、町内2か所の
拠点で運行開始(3週間後に2か所増設)

10月

実施後1カ月の拠点の状況共有と
買い物ボランティアの必要性を検討

11月

買物拠点に町内会有志で構成した住民ボラン
ティアを配置、買い物の見守り活動開始

3月

開始当初の買い物拠点を整理し、
3カ所に確定

6月

町内のマンション住民のニーズから、
アンケート実施

8月

アンケート結果を共有し拠点増設
(4カ所目)

10月

町内限定買い物ポイントカード導入
(PRちらし作成)

9月

ボランティア配置のニーズから、
拠点を増設(5カ所目)

8月

ニーズの減少により1拠点を終結

10月

買い物支援新PRちらし作成
(町内会未加入アパートへの周知でポスティング)

3月

拠点以外に移動販売車へ個別配達を依頼
高齢者のニーズの減少により2拠点終結



開始当初の
住民への周知ちらし



買い物ポイントカード



オリジナルTシャツ



買物支援実行委員会作成PR ちらし



豊平まちづくりセンター
所長 工藤奈津子

札幌市では、2025年時点で総人口の約28.9%が高齢者が占め、買い物に困難を感じる方が増えつつあると考えられます。旭水地区で行われている買い物支援活動は、とよら福祉のまち推進センターを中心として、こうした地域の課題にいち早く対応したものです。

コロナ禍を乗り越えて5年以上継続されてきた買い物支援のノウハウは、他地域にとっても大いに参考となる財産です。2050年には札幌市の高齢化率は約39.4%に達すると見込まれており、地域に根ざした支え合いの活動は、今後一層その重要性を増していきます。本冊子が、支え合いの輪をさらに広げ、誰もが安心して暮らせるまちづくりを推進するための一助となることを心より願っています。

札幌市長賞受賞



「いつもありがとう買い物って楽しい！」



優秀賞受賞



「住民のつながり」>新型コロナウイルス



とくし丸 活動写真ギャラリー



旭水町内会の魅力

町内会独自の取り組み ～町内居酒屋～

- ・町内会館を開放して開催
- ・身近な住民同士が気軽に交流
- ・生ビール町内価格、手作り総菜
- ・奇数月第3土曜日(年6回開催) 午後5:30～8:00



町名変更の実績 ～すいしゃまち～

水車町の地名を「すいしゃちょう」から「すいしゃまち」に変更することが令和7年10月に市議会で決まりました。住民の力で「すいしゃまち」を取り戻しました。



子育てサロン ～こりんご旭水ひろば～

- ・町内会館を開放して子育てを応援。
- ・育児中の孤立、孤独を 방지、同じ世代で仲間づくり。
- ・毎月第1火曜日(月1回開催) 午前10:00～11:30



住民同士の つながり

あたたかな地域の強い絆

子育て

子育て世代が暮らしやすい環境

支え合い

いつまでも、地域で暮らし続けるための地域の仕組み

町内に大型スーパーがない! 生活の困りごとに町内会が移動販売車の誘致で対応。

- ・町内に買い物の拠点を創設。
- ・買い物ボランティアを配置。
- ・ポイントカードで景品進呈。
- ・拠点まで来られない方には配達を依頼。



環境整備

ゴミ問題への取り組みと、草刈りの実施



地域環境の整備

ゴミステーションの設置による違法投棄防止やカラス対策、公園等の定期的な草刈りも実施しています。

防犯・防災

安心・安全な地域づくり



防災意識の向上

定期的な防災訓練の実施や、防犯対策も行っています。交通安全についても通学路に交通安全指導員を配置するなど町内会で推進しています。

健康づくり

元気なシニアライフを



充実した体育活動 ～毎朝のラジオ体操～

5月から10月まで、毎日ラジオ体操が旭水公園で行われています。ほかには「歩く歩く運動」「パークゴルフ大会」など健康づくりに力を入れています。

町内行事の充実

- ・豊平川神社例大祭
- ・盆踊り大会など



町内行事の充実 ～お神輿巡行や盆踊り～

会館内にある豊平川神社では春・秋と例大祭が行われ、秋には神輿が町内を回ります。8月には盆踊り大会が開かれ、豊平地区内で最大の来客数を誇っています。

地域活動の支援

まちフェスの共催協力や活動支援



まちフェスの共催 ～旭・水車まちフェス～

おやじの会とやわらぎ齋場豊平とともに「まちフェス」を開催しています。

- ・ステージショー
- ・物販ブースの充実
- ・キッチンカーによる販売